

泡盛を飲むための酒器

世界最小のお猪口？

壺屋焼には、泡盛を飲んだり、保存したり、運んだりする特別な道具が数多くあります。

カラカラと猪口

カラカラは泡盛を注ぐ入れ物です。底が平らなため倒れにくく、使うのが簡単です。泡盛の猪口は、酒を飲むのに使われる小さな器と似ています。

ちぶぐわー

ちぶぐわー（沖縄の方言で「小さな容器」）は、最高級のお酒を少しずつ飲むのに使われます。指ぬきよりわずかに大きいちぶぐわーは、おそらく世界最小の猪口でしょう。

嘉瓶（ゆしびん）

この大きなひょうたん型の泡盛の瓶は、泡盛を贈ったり、お祝いや儀式で使ったりする際に泡盛を入れて運搬するために使われます。受け取った人は、泡盛を自分の容器に移し、嘉瓶は返します。この瓶には「くびれ」があるので、容易に脇に抱えて運べます。

抱瓶

抱瓶（だちびん）（「抱くように抱える瓶」）は、肩にかけ紐がついていて瓶で、自分で飲む少量の泡盛を持ち運ぶのに使われます。しばしば装飾が施される抱瓶は、陶器職人の技術の見せどころです。

うぬのていー

大きく頑丈な泡盛の瓶です。名前は「鬼の腕」を意味しています。

ふちゆくる瓶

この小さな容器は、葬儀の際、泡盛で満たして遺体が纏う衣装の中に入れます。中の泡盛は、先祖への贈り物の意味があります。